



# 地域猫活動事例集



令和6年3月

## 注意事項

- 本事例集は、令和2～4年度に実施した「愛媛県地域猫活動推進モデル事業」（事例中では「県のモデル事業」と表記）に採択された地域におけるヒアリング結果等をもとに作成したものです。各事例は活動年数が異なっているため、単純に比較することはできません。
- 猫の頭数について、周辺地域からの流入や事故等による死亡などの増減もあり、活動前の猫と現在の猫が必ずしも一致しているわけではないため、頭数の増減はあくまで目安に過ぎません。
- 地域猫活動は、不妊去勢手術により繁殖を抑制し、一代限りの生を全うさせることで中長期的な頭数の減少が期待され得るものであり、手術の実施により直ちに頭数の減少に結び付くものではありません。



## 地域猫活動事例（ケース①）



### 1 地域の環境

市街地から少し離れた山間部に位置する地域

### 2 地域猫活動を始めたきっかけ

地域の方がエサを与え始めたことでいつの間にか飼い主のいない猫の数が多くなっており、対策をインターネットで調べたところ、保健所のHPに地域猫活動のページがあったため、保健所に相談して活動について教えてもらったのがきっかけ。その後、県が主催するセミナーや他の地域も参考にしながら活動を行い、県のモデル事業にも採択された。

### 3 活動内容

地域猫活動を始めるにあたり、地域住民としっかり話し合いを行い、活動を行うことでいい方向に向かうことを説明した。中には反対する人もいたがきちんと説明し、その後も数か月に1回、報告を行った。地域の実態を把握するため、生息場所、雌雄の別などを調べて猫マップと猫一覧を作成した。

手術のために猫を捕獲する際は、事前に回覧板で周知し、飼い猫は首輪をつけてもらうか、その期間は外に出さないようにしてもらうなど、トラブル防止に努めた。猫の手術費用やエサ代は、自己負担に加え、募金や県のモデル事業、県獣医師会の不妊手術助成事業を活用するなどして賄った。

エサは決まったエサ場3か所で与えて、トイレはプランターに土を入れ、フンに気付いた住民が清掃を行うルールを作って活動している。また、多くの人に活動を知ってもらうため、商業施設等でパネル展を定期的実施している。

### 4 活動において苦慮した（している）こと

- ・捕獲器に入らない警戒心の強い猫が一定数いるほか、他地域から猫が流入してくるので、未手術の猫がいる。
- ・捕獲できても、連絡してすぐに手術をしてくれる動物病院が近くにないため、遠方の動物病院に連れて行くのが大変。（仕事との兼ね合いや交通費など）

### 5 現在の状況

活動前の猫頭数	35頭前後
不妊去勢手術実施頭数	30頭（県のモデル事業以外を含む）
現在の猫頭数	20頭（▲15）

- ・手術後、寿命等によって頭数が大きく減少した。

### 6 その他

- ・地域猫活動にはお金がかかる。不妊去勢手術にかかる費用だけでなく、エサ代や病気になった時にはその治療費、啓発活動をする場合はその費用も負担が必要。
- ・独居の高齢者が猫の世話をしてくれていて、猫の状況を聞きに行くことで、高齢者の見守りにもなっている。
- ・活動を知った方から問い合わせが定期的に入るので、現地に行ってアドバイスするなど、できることは協力している。



## 地域猫活動事例（ケース②）



### 1 地域の環境

海沿いにある住宅が密集した地域

### 2 地域猫活動を始めたきっかけ

もともと飼い主のいない猫が多い地域であったが、近くの公園に猫を捨てる人がおり、周辺で猫の頭数が増えてきたため、数年前に地域猫活動を始めた。不妊去勢手術は自費で実施していたが、手術に対する補助金がないか役所に問い合わせたところ、保健所を紹介され、県のモデル事業に採択された。

### 3 活動内容

地域内には回覧板で活動について周知するとともに、環境省が作成した虐待防止ポスターを掲示した。保健所の職員と一緒に自治会開催の説明会に行き、地域猫活動について説明してくれた。猫が嫌いな人は嫌いなままであるが、以前のように声を荒げて追い払うようなことはなくなった。

活動当初は猫が13頭いたが、県のモデル事業で10頭の不妊去勢手術を実施できたこともあり、現在の猫の数は10頭となっている。猫の捕獲器については県が貸してくれた。

エサは自分たちで用意し、朝夕晩の3回、時間と場所を決めて与えているほか、トイレについても毎日清掃を行っている。地域猫を飼い猫として引き取ってくれた方もいる。

### 4 活動において苦慮した（している）こと

- ・活動において、一番大変なのは不妊去勢手術関係で、猫を捕まえて動物病院に連れて行くのに1日かかる。（時間や費用面の負担など）
- ・捕獲の際、捕獲器は大きな音がするので、警戒心が強い猫ほどいつまでたってもかからない。

### 5 現在の状況

活動前の猫頭数	13頭
不妊去勢手術実施頭数	11頭（県のモデル事業以外を含む）
現在の猫頭数	10頭（▲3）

- ・エサを管理して与えることで公園のゴミ漁りが減った。
- ・去勢手術によって猫に関する悪臭被害（マーキング）が減った。

### 6 その他

- ・他の地域からの問い合わせで、困りごとで悩んでいる場合は現地に行って相談を受けているが、活動を誤解している一部の方から猫の引き取りを依頼されることがあるので、地域猫活動の趣旨をより多くの方に理解していただく必要がある。



## 地域猫活動事例（ケース③）



### 1 地域の環境

市街地から少し離れた山間部に位置する地域

### 2 地域猫活動を始めたきっかけ

怪我をした猫を保護し、エサを与え始めたことがきっかけ

### 3 活動内容

家の付近に住む猫に対して不妊去勢手術を行うとともに、エサやりやトイレを管理している。エサは決まった場所、決まった時間で与え、トイレの管理も行っている。活動開始時には地域の方に文書を配布して周知した。今では、地域の住民の方も声をかけてくれたり、エサを買ってきてくれるなど活動前と比べて協力的になっている。

### 4 活動において苦慮した（している）こと

不妊去勢手術をしていないのに無責任なエサやりをしてしまうとかえって子猫が増えてしまう。

### 5 現在の状況

活動前の猫頭数	6頭
不妊去勢手術実施頭数	6頭（県のモデル事業以外を含む）
現在の猫頭数	7頭（+1）

### 6 その他

オスもメスも不妊去勢手術しておかないと限りなく増えてしまう。



## 地域猫活動事例（ケース④）



### 1 地域の環境

駅周辺の繁華街に位置する地域

### 2 地域猫活動を始めたきっかけ

もともと猫はそこまで多くない地域だったが、少しずつ数が増え始め、市役所に苦情を入れる人も出てきた。何か対策をしなければならぬと思っていたところ、県のモデル事業をきっかけに、団体を結成して地域猫活動に取り組み始めた。

### 3 活動内容

地域猫活動を開始するにあたり、特別に周辺店舗等に説明等はしていないが、手術のために猫を捕獲するときには、「〇月〇日～〇月〇日まで猫を捕獲します。」という周知を行い、捕まえた猫はボランティア団体と協力して動物病院に連れて行った。県のモデル事業終了後は、ボランティア団体が手術の枠を確保してくれ、その指定日にあわせて近隣の地域も含む一帯で協力して捕獲作業を行っており、これまでに約30頭の不妊去勢手術を行った。

エサ場は複数箇所に設置しており、定期的に清掃を行っている。また、捕獲器に慣れさせるため、ダミーの捕獲器を用意して中にエサを置いたりしている。トイレもきれいに掃除しており、これまで糞尿の臭いによる問題は特になかった。猫が嫌いな人はいるが、反対してくる人はいない。エサ代等は自己負担しているが、猫好きな人が募金をしてくれるので活動経費に充てている。

### 4 活動において苦慮した（している）こと

- ・活動の中で一番大変なのは猫の捕獲で、手術を行う動物病院等から手術可能な日時を指定されるため、自分たちの都合で捕獲することができない。捕まえたらずぐ病院に連れて行けるようになれば、もっとやりやすいと思う。また、いつでも使える不妊去勢手術費用への補助があれば助かる。
- ・他地域から来る猫やなかなか捕まらない猫がおり、未手術の猫がまだ数頭いる。

### 5 現在の状況

活動前の猫頭数 30頭

不妊去勢手術実施頭数 30頭（県のモデル事業以外を含む）

現在の猫頭数 15頭（▲15）

- ・よく見かける猫は数頭程度になり減少している。
- ・子猫が減ったことや猫同士の喧嘩が少なくなっておとなしくなったほか、ゴミ漁りもなくなった。

### 6 その他

- ・猫が一定数いてくれることでこの地域ではネズミが減っている。
- ・まだ手術できていない猫の手術が終わるまでは、活動を続けたい。



## 地域猫活動事例（ケース⑤）



### 1 地域の環境

海岸沿いに位置する地域

### 2 地域猫活動を始めたきっかけ

もともと猫が数頭程度いると思っていたが、どんどん増えてきた。これ以上増えると大変だということで、町から不妊去勢手術費用の補助を受け、地域猫活動を始めることとなった。地域猫活動そのものについて、町や保健所には相談は行っていない。

### 3 活動内容

地域猫活動についての特別な告知はしていないが、近所の人には活動について理解してもらっており、これまで文句を言われたりはしたことはない。不妊去勢手術は、町の補助や県のモデル事業などを活用して行ったほか、自己負担でも実施している。隣の市にある動物病院に連れて行って手術しているが、予約してから約2週間後の実施になるので、あらかじめ予約しておいて、前日や当日に捕獲を試み、捕まらなかったらキャンセルしている。

エサ場とトイレ場は複数箇所に設置し、清掃を行っている。怪我している猫は動物病院に連れて行き、治療を受けさせている。

### 4 活動において苦慮した（している）こと

- ・捕獲器を持っていないため、捕獲するのに苦労している。
- ・警戒心が強く、なかなか捕獲できない子があり、未手術である。

### 5 現在の状況

活動前の猫頭数	18頭
不妊去勢手術実施頭数	10頭（県のモデル事業以外を含む）
現在の猫頭数	21頭（+3）

- ・他の地域から来た猫がいるため、活動前より少し増えている。

### 6 その他

- ・捕獲器の貸し出しがあったら助かると思う。



## 地域猫活動事例（ケース⑥）



### 1 地域の環境

住宅密集地に位置する地域

### 2 地域猫活動を始めたきっかけ

もともと猫が多い地域だったが、猫による被害が多く、猫の数を減らすために2～3年前に団体を設立して県のモデル事業に参加し、不妊去勢手術などを行った。

### 3 活動内容

猫トイレ（プランター）を設置して毎日掃除をしている。猫が苦手なメンバーが多いため、知り合いのボランティア団体に捕獲をしてもらい、不妊去勢手術を行った。エサやりさんがいるので、エサ場は特に設けていない。

### 4 活動において苦慮した（している）こと

- ・猫は1つのトイレ（プランター）につき決まった1頭しかしないので、複数設置する必要があるが、必要な数が設置できていない。
- ・無責任なエサやりをする人がいるため、かえって地域の猫が増えてしまい、糞尿被害や騒音など周辺環境の悪化を招いてしまっている。
- ・不妊去勢手術の費用が高く、町内会費からの持ち出しをするにも限界がある。

### 5 現在の状況

活動前の猫頭数 10頭

不妊去勢手術実施頭数 10頭（県のモデル事業以外を含む）

活動直後の猫の頭数 5頭（▲5）

※現在の猫の頭数 15頭（+5）

- ・不妊去勢手術を実施した後、猫の数が減って、発情期の夜鳴きがなくなるなど一定の効果があった。

### 6 その他

- ・周辺地域から新たな猫がくるほか、昨年から地域内で新たにエサやりを始めた人がおり、このことにより猫が増えている。
- ・猫がたくさんいるからと、他の地域から猫にエサを与えにくる人がいる。
- ・不妊去勢手術をしていない外飼いの猫もおり、今後さらに頭数が増える可能性がある。





## 地域猫活動事例（ケース⑦）



### 1 地域の環境

山間部にある住宅地に位置する地域

### 2 地域猫活動を始めたきっかけ

もともと飼い猫だった猫が、飼い主の施設入所により飼えなくなって外に放され、飼い主のいない猫になって子猫を産んだことで、どんどん数が増えていった。役場に相談したところ、県のモデル事業を紹介され、申し込んだことが活動のきっかけとなった。

### 3 活動内容

地域猫活動を始める前に、住民に説明した後、手紙を個別にポスティングしてまわった。その後も状況報告の手紙など、合計4通の手紙をポスティングしたことで大半の方に理解してもらえ、猫嫌いな方でも、猫除けグッズを買って持っていくと「いいよいいよ」と言ってくれた。なかなか捕まらない猫もいたが、県のモデル事業を実施した約3か月間ですべての猫の不妊去勢手術をすることができた。

エサは1日1回、夕方4時頃に与えることにしており、大半の猫はこの時間に集まってくる。エサ場とトイレ、寒さを避けるための手作りの小屋を作っている。

### 4 活動において苦慮した（している）こと

- ・大きい捕獲器は、かかった時に大きな音がするため、他の猫が警戒して次からかからなくなってしまったので、小さい捕獲器で音もあまりしないものがよい。
- ・猫を捕まえた後、捕獲器に入れたままにしておく、それを見たほかの猫が警戒するようになるので、捕まったらすぐに車の中に入れるなど、見えないようにしたほうがよい。
- ・強固に反対している人がいて、何度も説明に伺ったが話を聞いてもらえない。

### 5 現在の状況

活動前の猫頭数 21頭

不妊去勢手術実施頭数 21頭（県のモデル事業以外を含む）

現在の猫頭数 15頭（▲6）

- ・手術後は、発情はなく、穏やかになってマーキングも減るし、鳴き声もない。

### 6 その他

- ・活動は3人でスタートしたが、「命を預かる」という強い意志が必要だと思う。
- ・協力者は多ければ多いほどよい。猫が嫌いな人は、見て見ぬふりをしてくれるだけでもよい。



# 地域猫活動事例集まとめ



## ○地域猫活動を始めたきっかけ

以前より飼い主のいない猫が増えてきたことで周辺環境の悪化や苦情が出始めたことで、活動を始めたケースが多く見受けられた。

## ○地域猫活動はどこで知ったか？

- ・ 県 HP から見つけた  
(参考) 愛媛県薬務衛生課 <https://www.pref.ehime.jp/page/9968.html>
- ・ 近くの保健所や各市町に相談した
- ・ ボランティア団体のセミナーに参加した
- ・ 他の地域猫活動を参考にした

## ○地域猫活動における効果

- ・ 猫の頭数が活動前と比べて減少した
- ・ 猫の不妊去勢手術によってマーキングが減り、悪臭が減少した
- ・ トイレの設置により、糞尿による被害が減少した
- ・ 決まった時間・場所でエサを与えることでゴミ漁りが減った
- ・ 募金活動など地域の方が協力してくれるようになった

## ○苦労した点・課題

- ・ 警戒心が強い猫が捕まらない
- ・ うまく捕獲ができててもすぐに手術できる動物病院が少ない
- ・ 県から借りた捕獲器では捕獲時の音が大きいため、猫が警戒して入らない
- ・ 補助金を活用する場合、遠くの指定された動物病院まで搬送しないといけない
- ・ 一時的に頭数は減ったが、他の地域からの猫の流入等により、増加している
- ・ 住民同士の話し合いが不十分であったため、役割分担ができておらず、地域猫活動の趣旨から外れてしまった

## ○総括

飼い主のいない猫における課題は、それぞれの地域の環境（住宅密集地や過疎地域等）によって異なりますが、地域住民による十分な話し合いが行われた地域ではスムーズな地域猫活動が実施されています。地域猫活動を始める前に地域住民が主体となって給餌時間・場所の設定やエサやり・トイレ場の清掃を分担して行うなどのルールを作り、自治会等を活用した説明会の開催や回覧板で定期的に活動内容の報告を行うなど、地域住民の理解を求めることが活動を円滑に進める重要なポイントです。

## ○参考

県では「地域猫活動ガイドライン」を策定しており、活動を行ううえでのルールや活動の進め方など参考にすることができます。また、お近くの保健所でも地域猫に関する相談を受付けていますので、適宜ご相談ください。各市町や県獣医師会の不妊（去勢）手術の助成制度については、それぞれの HP をご確認のうえ、ご相談いただきますようお願いいたします。